

第2節 北見市の産業・医療・教育

■ 北見市の産業構造

平成22年(2010)国政調査では、北見市の総従業者数は58,179人で平成17年より約3千人減少しています。

	第1次産業	第2次産業	第3次産業	分類不能産業
産業別従業者	4,139人(7.1%)	10,251人(17.6%)	40,016人(68.8%)	3,773人(6.4%)

< *平成25年(2013)きたみポケット統計より >

● 北見市の基幹第一次産業

農業<北見市農務課資料>

北見市の経営耕地面積は約21,942ha。

日本一の生産量を誇る玉ねぎ、畑作三品(麦類、馬鈴薯、甜菜(ビート)、豆類、野菜類などの畑作と、稲作(主としてもち米)、園芸に加え、酪農、肉用牛、養豚など家畜など、多様な経営が行われています。

自治区別の特徴

①北見自治区 1戸当りの平均経営耕作面積は12.3haで北見市では比較的小規模経営が中心となっています。

作物では、畑作三品をはじめ、玉ねぎを中心とした野菜の作付が多く「北見玉ねぎ」の中心的な生産地となついる他、果樹、花卉も栽培されており、水稻は端野自治区とともに「もち米団地」として指定されています。

②端野自治区 1戸当りの平均経営耕作面積は18.9haで北見市の標準的な経営規模となっています。

作物では、畑作三品をはじめ、水稻、玉ねぎが中心ですが、地ビールの原料となる二条大麦が契約栽培されている他、小球玉ねぎ(ペコロス)・赤玉ねぎ・チコリ・しそなど付加価値が高い畑作経営が特徴となっています。

③留辺蘂自治区 1戸当りの平均経営耕作面積は24haと北見市では大規模経営で、傾斜地の多い山間部では酪農経営が特徴です。

作物では、畑作三品の作付割合が高く、豆類を加えた輪作体系が確立されています。

特に冷涼な気候を利用した高級菜豆の代表といわれる白花豆は全国一の生産量を誇り、白菜、レタスなどの葉物野菜生産が特徴です。

家畜部門では、瑞穂・温根湯地区を中心にコントラクター、TMR(完全混合飼料)センター